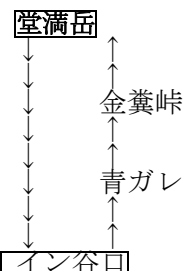


4月30日 比良山系 堂満岳

伊藤多恵子

山名	比良山系 堂満岳		山行名	個人山行		
ルート	イン谷口～青ガレ～金糞峠～堂満岳～堂満東稜道～イン谷口					
山行日	4月30日		天候	晴れ		
参加者	リーダー：伊藤 男性：山下 中田 佐々木 女性：幾田 倉光 大林		サブリーダー：秋山 合計：8名			
ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	京都駅	集	7：20	堂満岳手前	着	11：35
		発	7：24		発	12：20
	イン谷口	着	8：30	堂満岳	着	12：22
		発	8：35		発	12：25
トイレ前駐 車場	着	8：45	イン谷口	着	14：50	
	発	9：00		発	15：25	
金糞峠	着	10：40		着		
	発	10：50		発		
山行報告						
<p>4・29日の例会を雨で断念。翌30日に個人山行として実施。参加者は半数ほどに。</p> <p>前日の強い雨と風で洗い清められたかのように、雲一つない空、輝くばかりの新緑。一日中暑くもなく寒くもなく、さわやかな空気はめったに望めないほどの心地良さ。こんな日に山を歩けることの幸せを噛みしめる。</p> <p>12キロの荷を背負ったSL・Aさんの先導は快調で、適度な速度でほぼコースタイム通り。青ガレ・金糞峠と順調に上り詰め、峠でゆっくりと休憩。琵琶湖がくっきりと見える。ここから、期待の石楠花ロードが始まるのだが、あれっ！まだつぼみだ。花芽を付けていない木も多く、今年は花の少ない年に当たったかと残念な気持ちなる。前の方で、Yさんが「伊藤さん、来年来ようよ！」と、気の早いことを…。「誰かCLやってね！」と返す。それでも上るにつれ、すぐ側に大輪の石楠花が微笑んでくれる。前日の雨に散りしだかれた花もある。</p> <p>堂満岳の手前の広がった斜面に石楠花が花盛り。「ここでお昼にしよう！」と誰からともなく。堂満の頂上は狭くて、込み合うのが分かっているから。おかげで、花を眺めながら、ゆっくりのんびりとお昼休憩。向かいの蓬莱山の建物まではっきりと見える。Oさん手作りのちらし寿司をみんなで分けて頂く。その美味しいこと！</p> <p>堂満岳は記念写真撮影のみで通過。しばらく急な下降道が続き、緊張を強いられる。堂満東稜道にも普段は石楠花が多いが、この日は少ない。その代わり、あふれるほどの若葉に覆われた林がまぶしい。それが杉林に変わる頃、道は平坦になる。いつもは泥っぽい沼のようなノタノホリがこの日は水面に青空と緑陰を映し込んで神秘的に見える。ここまで来れば、ふもとまであと一息。バス停には余裕で到着。短いコースとは言え、長い下り道。お疲れさまでした。</p> <p>(ヒヤリハットなし)</p>						

感想文

幾田 邦江

雨天の為、順延となり、参加者は8名。歩いていても先頭と最後尾の人が一目で見える程で、安心感やら、親近感やらが沸いてきました。雲一つ無い好天気恵まれ、とても心地良かったです。歩行速度もゆっくりで、休憩時間も充分取ってくださり、超歩きやすかったです。ベテランの方々が、山行の経験値が少ない私を気にかけてくださいました。一緒に歩けた事が嬉しかったです。職場では年長者組に属する60歳手前の私に、この日、「このメンバーの中では、一番若いねー」と話かけてくださる方がいました。嬉しい反面、照れました。堂満岳のしゃくなげは、昨年より開花数が少ないとの事。来年もチャレンジしたいと思います。皆様、ありがとうございました。

平均73才の精鋭パーティ、難所青ガレもスイスイ、石楠花が鮮やか

佐々木 康治

当初の予定日は大雨、強風と天気は大荒れ、急遽変更した翌日の4月30日(土)は前日とはうってかわった登山日和、湖西線の車窓から眺める比良の山々は新緑に映え、**平均年齢73才**というベテラン・パーティの登攀意欲を掻き立てる。比良駅からイン谷口までのバスは登山客でギッシリ、女性の姿が圧倒的に多い。近年女性登山客が多くなったのは何故だろう、山男にではなく、純粋に大自然に憧れているに違いない。男3、女5の山友会部隊が正面谷ルートを上がっていくと次々とダムが現れ、渡渉すると難所「**青ガレ**」。下ってきた女性が「転倒してズボンの膝が破れた。気をつけてね!」と警告。ガレ場とは「拳より大きな石がゴロゴロした斜面」のこと、なんとか閻魔様に召されることもなくクリアー。金糞峠に達してホッと一息、釈迦、武奈、蓬萊の雄姿が鮮やか。堂満岳山頂(1057m)への稜線は**シャクナゲ**の自生地、今年は裏作だが果てしなく続くピンクの大輪にウツトリ。愛らしいイワカガミたちも「私たちも見て頂戴」と微笑みかける。鮮やかな花々を眺めながら至福のランチタイム、大林シェフのスナック、チラシ寿し、三色団子に頬ぺたを落とし、空気も爽やか、もうこの世に思い残すことはない。頂上直下の急勾配をポールと軽アイゼンの助けをかりて慎重に下り、神秘の池「**ノタノホリ**」に到達。ここは別世界、暫し水面に映える青葉に見入る。ノタは沼田→沼→ノタ、ホリは堀(池)で、不可解なカタカナ文字は「沼の池」の意。15:00前に無事下山、12kgの荷物を背負う秋山サブには畏敬の念、しんがりを務めた伊藤リーダーの心遣いに感謝しながら青天のもとイン谷口で解散。

山下 隆

比良好きの伊藤さんの案内で堂満のシャクナゲのお花見が計画され、さっそく申し込む。4年前にも今回と同じコースを伊藤さんに案内してもらった。何かの都合で例会に参加できなくなり、彼女にばやいたら 後日案内していただいた。堂満岳の頂上は今回と同様にシャクナゲは満開だったのを思い出す。湖西線に乗ると、西側に主のようにそびえる堂満岳を見るたびに シャクナゲの季節に登ったことを思い出す。頂上近くの崩れた山肌も堂満岳の急峻さの勳章にもみえた。今回は暫く会っていない友人に会える気持ちで参加した。我らの年だと4年ぶりに合うと、その間の変わりようにビックリするものだが、山は変わりなかった。4年前に比べ、今年は裏年らし

く 花は少ないように思ったが 裏でも咲いているシャクナゲはなお愛おしい。写真に収める、あちこちで歓声が起こる。シャクナゲも喜んでいるようだ。4年後か来年の表年にも又来てみたい。

4年前の長い下りでは膝を痛めたので、今回はサポーターを付け小股歩きを意識し無事に下山出来たことも嬉しかった。比良駅前にある食堂では老夫婦が営む食堂でビールをゲット。志賀駅前ではビールをゲットできないので皆さんご注意ください。天気の良い日に変更できたお陰で楽しい一日でした。伊藤さん皆さんありがとうございました。

